

【求める15歳の姿】

受け入れ合い

支え合い

高め合う生徒

～互いの考えや意見を尊重

した発言・意見を通して～

## 鷺 中

今年度最後の土曜授業



TEL86-7950 fax86-7961

発行責任者：校長 鈴木 恭 朗

## 2学年で誕生学講座(12/14) アドバイザー澤田宏美さんから学ぶ 胎児の驚くべき生命力とわが子が誕生したときの親や周囲の人の感動 わが子を育てるために注いだ愛情とエネルギーを改めて実感

誕生学アドバイザー、澤田宏美さんを講師に招き、性と生の両方を学ぶ特別授業を行ないました。受精卵の大きさや、胎盤の中で胎児が成長する様子、出産するときのお母さんの痛みと喜びと感動、誕生した瞬間の周囲からの祝福、そして毎日の子育ての様子など、映像やクイズをとおして分かりやすく話してくださいました。

授業を受けた子どもたちの感想を掲載します。



- 最初に、お母さんのおなかの中で約0.1mmの大きさだったのに、約10か月後には、すごく大きくなっていましたので、赤ちゃんの成長のスピードが早くてびっくりしました。僕が元気に過ごせているのは、お母さんのお腹の中で0.1mmのときから親が大切に育ててくれたおかげなんだなと思った。最後の映像のようにお互いの気持ちが伝わらないことがあることを知ったので、相手に気持ちが伝わるように話そうと思った。
- 今回の講話を聴いて、子どもの生まれ方など、赤ちゃんは常に声掛けしていないと死んでしまうことを知り、そうなんだなと思いました。とても勉強になりました。僕が生まれてくるのが、たくさんの努力によるものなので、この命大切にしようと思いました。
- 子どもの生まれ方、命の大切さをよく知ることができました。子どもが生まれる動画をみたときに、母親の顔が幸せそうで、こっちまでうれしくなりました。
- 今日の講話を聴いて、生まれてくることは当たり前じゃないことがわかりました。今自分が生きているということは、たくさんの人がいたからだと改めて感じることができました。
- 今日、実際に生まれたばかりの赤ちゃんの重さと、大きさが同じのアンディーくんを抱っこしましたが、私が思っていたよりも、小さくて軽かったです。私には、妹と弟がいるのですが、生まれてすぐには抱っこしたことはなかったので、重さを実感できてよかったです。また、赤ちゃんが誕生するという事は、本当に奇跡みたいなことと聞き、自分が生まれてきたのも、当たり前なことではなかったんだなと思いました。
- 最初は、子ども産みたくない、ちゃんと愛せなさそう、と思っていたけど、映像を見て自分の親も辛い、痛い思いをして産んでくれて、ここまでもこれからも大切に育ててくれると思うと、自分も辛く、痛い思いをしてでも、子どもを育てたいと思いました。
- 私たちの祖先が2000人以上いることを知り驚きました。今まで命をつないでくれた人や自分のためにも、改めて命を大切にしないといけないと思いました。世界に1人しかいない私を大切にします。

### 3 学年進路集会 (12/13) 受験勉強の意識、面接の心得や作法学ぶ

進路指導担当教諭から、受験に係る日程や各自準備すること等について集会をもちました。いよいよ入学願書の記入が始まります。推薦制度を活用して受験する生徒は自己アピール文の作成も必要になります。何より「この学校では、こういうことに挑戦してみたい」という志望の動機が確固たるものでなければなりません。面接試験を受ける生徒は、担任の先生、進路担当の先生からもらう資料に何度も目を通して、十分な準備をしてほしいと思います。



悪い例を紹介する場面

### 入試準備でたまるストレスとうまく付き合い、みんなで試練を乗り越えましょう

1学期にスクールカウンセラーの特別授業では、ストレスと上手に向き合う方法とコーピングについて教えてもらいました。好きな音楽を聴いてみたり、照明を消して心を落ち着かせてみたりするなど、自分に合うやり方を見つけましょう、と学びました。

また、目をつぶりオルゴールなどの音を聞きながら深呼吸するコーピングも教わりました。長時間の勉強で疲れたとき、受験のことを考えると不安になってしまうときなど、上手に活用してストレス軽減に役立ててほしいと思います。

### 中学生人権作文 駿河くん (2-2) が優秀賞に

第41回全国中学生人権作文コンテスト室蘭地区大会

【優秀賞】 ■■■■■ 「あなたの命を救う言葉」

いじめという意識をまったく持たずに、相手にしていた自分の行為が、いじめだとある先生に指摘され、今ではその先生の言葉に感謝している。今度は、自分の言葉でいじめを止めたい。という内容の作文です。

また、本校から3人の生徒が奨励賞を受賞しました。

【奨励賞】

■■■■■ (1-1)  
■■■■■ (2-1)  
■■■■■ (2-3)



### 駿河くん、北海道代表で文科省へ

1月21日(土)、全国いじめ問題子どもサミットが文部科学省庁舎で開催されます。

本校生徒会長、駿河 煌心くんが北海道の中学生を代表してこのサミットに参加することになりました。

登別市では、鬼っ子サミットを昨年度から開催しています。市内小中高生が一堂に会し、「みんなが通いたくなる学校づくり」を目標に掲げ、ワークショップやパネルディスカッションでの討論など、学校の垣根を超え、一致団結して取り組んでいます。

このたび、北海道教育委員会から登別市のこのような取組が評価され、鬼っ子サミットで、鬼っ子宣言するなど活躍した駿河くんが選ばれました。

また、鷲別中学校生徒会が主体となり、一人一人がいじめ問題について考え、「しない・させない」ための取組も他県の児童生徒に発表します。

現在、ピンクシャツデーに向け、全校生徒がいじめ根絶メッセージを書き廊下に掲示しています。いじめ問題について一人一人が深く考え、軽はずみな言動やSNS上でのトラブルを避けることができるスキルを向上させていきたいと思います。

### 今年度最後の土曜授業、参観ありがとうございます

新入生入学説明会を3校時行いました。新制服や部活動地域移行に関する話題では、メーカー、市教委の方に直接説明していただきました。悩み相談等に関しては尾野スクールカウンセラーから、SNS上のトラブル等の事例や回避する方法について、室蘭警察署の方に講話をしていただきました。

